

米山新田と米山用水（ゆみぞ）

～米山宗隆・米山宗持と円座の人々の努力によるたまもの～

小中学生版（簡略版）2025年

米山用水（よねやまようすい）は、三重県伊勢市横輪町（よこわちょう）の横輪川の米山用水「とうしゅこう」（頭首工、川から用水を取り入れる入り口、写真①）から上野町を通って、円座町（えんざちょう）まで続いています。全長約7.6kmあります。

円座町の人々は米山用水を『ゆみぞ』と呼んでいますが、ここでは米山宗隆（むねたか）さんと米山宗持（むねもち）さんの功績（こうせき）に敬意を表して、『米山用水』と書きます。



①横輪川の米山用水「とうしゅこう」（右奥が取入れ口）

米山新田と米山用水

昔、沼木村（ぬまきむら）円座（現在の三重県伊勢市円座町）は少し高台にあるため、宮川が村のすぐとなり流れているにもかかわらず、低い所を流れている宮川から水を引かず、ほとんど荒地になっていました。（水は高い所から低い所に流れるため、電気などで動くポンプのない時代では大量の水をあげることができませんでした。）そのため、米の収穫量は少なく、村の人々は麦やあわ（穀物の一種）を食べて、苦しい生活をしていました。

水は米などを生産する農業だけでなく、人間が生きていくためには必要不可欠（ふかけつ）なものです。

米山宗隆（むねたか）

江戸時代の元禄（げんろく）2年（1689年）に、紀州藩（きしゅうはん）円座組の大庄屋（おおじょうや）であった米山家4代の米山宗隆さんを中心に村の人々と力を合わせ、新田（しんでん）をひらき約5.5kmの水路の工事を始めました。

長くて苦しい努力の結果、7年後の元禄9年（1696年）に工事は完成しました。水は上野町にある大熊山（おぐまやま）の谷川から引きました。機械のない当時は、「くわ」でみぞを掘り、高い所はけずり、「もっこ」（土砂を運ぶための道具）で土を運び、低い所を埋め立てる重労働の仕事でした。

これによって県道伊勢南島線（なんとうせん）ぞいの約7ヘクタール（1ヘクタール＝100m×100mの面積）の良い田を得ました。水路の水のおかげで、新田には、稲が実り、畑には、茶やこうぞ（和紙の原材料となる植物）が栽培されました。

米山宗持（むねもち）

1 130年以上経って、用水路は土手がぐずれ、土砂がたまり、雑草がしげって使えなくなっていました。水が入らないために、新田は3ヘクタールしか米を作ることができませんでした。

9代の米山宗持さんはその水路が荒れているのを見て、前の美しい水田にしたいと考えました。滋賀県の信楽（しがらき）にあった代官所（だいかんしょ、江戸幕府（ばくふ）の役所）に工事の願いを出しましたが、許可されませんでした。そこで、江戸（今の東京）に行き、江戸幕府の老中松平定信（ろうちゅう まつだいらさだのぶ）に申し出て、やっと許可をもらいました。

2 文政（ぶんせい）12年（1829年）に村人と共に工事を開始しました。横輪川から約7.6kmの水路を開く計画でした。横輪川の上流に「いせき」を作り、横輪川の水を分けて流す工事でした。「いせき」は、「せき」ともいい、川の水をせき止める所です。「いせき」は水を他の所へ引いたり、流れる水量を調整したりするために使います。「いせき」は土や石を積んで作りました。（写真②は現在の「いせき」で、コンクリートで直されています。）

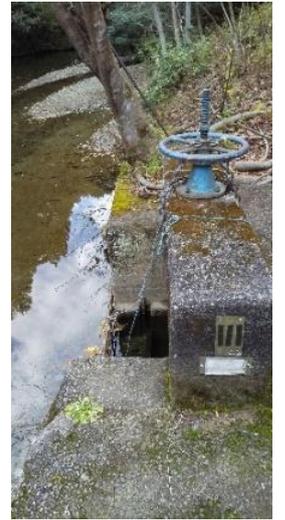
横輪川に並行(へいこう)して大熊山(おぐま(やま))と日向山(ひなたやま)のふもとに沿ってみぞを掘りました。水路の高さは「ちょうちん」のあかりで高さを決める「ちょうちん測量」で測りました。「ちょうちん」に棒を立てて、夜間に多くの人々が「ちょうちん」を持って並び、「ちょうちん」の高低差を測量しました。

しかし、水路は前方にある小高い台法寺山(だいほうじやま)をこえないと、水が円座に流れません。それで、約150mのトンネル(「ずいどう」という)を掘りました。トンネルは現在のいせ上野台団地の近くで、サニーロードの下を横切って、通っています(写真⑫⑬)。方向磁石(磁石で方向を測る道具)と水準器(水平を測る道具)を使って、トンネルの方向や傾きを決めて、石ノミと「つち」だけで岩をけずり、土を「もっこ」(土砂を入れて運ぶ道具)を使って外に運び出しました。あかりは「がんどう」(ロウソクを使ったけいたい用ランプ)を使いました。掘った所は木を組んで支えを作りました。当時は、大型の機械もないので、トンネルを掘るのは大変な仕事でした。

天保(てんぽう)2年(1831年)に、大きな困難の末に、7.6kmにおよぶ長い水路がほぼできあがりしました。



②現在の「いせき」



③左の川からの用水取入口

3 しかし、1831年の7月に大雨が降り洪水によって、せっかく作った水路は切れて、トンネルもくずれてしまい、水路のほとんどは使えなくなりました。

ここで、宗持さんはあきらめませんでした。米山家の財産をすべて投げ出し、かつ米山新田を担保(たんぽ、借金の保証として差し出す物)にして、借金をしました。天保3年(1832年)にもう一度、工事を再開しました。トンネルには、愛知県の三河(みかわ)産の丈夫な石(写真④)を買って、石でトンネルを支えて強固(きょうこ)なものにしました。



④トンネルに使用された三河産の花崗岩の石材の一部(長さ約1m)

【現在:大水が出た時に、あふれた水を横輪川にもどす仕組みである「うてび」がいくつかの所にあり、水路には、「うてび」の標識があります(写真⑤~⑦)。また、大雨の時、流れる量によって自動的に動く「転倒(てんとう)ゲート」も設置されています(写真⑧⑨)。】



⑤第1「うてび」(全体)、左が横輪川



⑥「うてび」(上側が用水路)、水量が多いときは下側の水路で横輪川にもどします



⑦第1「うてび」の出口
多すぎる水量は右の所から下の横輪川にもどります



⑧転倒(てんとう)ゲート



⑨洪水(こうずい)時に、転倒ゲートのステンレス製のシリンダーが下に動いてゲートが倒れます。前方中央にゲートのシリンダーがあります。

4 多くの困難と不運にもかかわらず、米山用水は宗持さんと村民の努力と忍耐のおかげで、やっと完成しました。新田の約10ヘクタールと使えなかった田の約27ヘクタールに水を引くことができました。村人は用水を引いた水田で米作りにはげみました。

5 宗持さんはこの工事に自分の財産(ざいさん)の1389両を投じただけでなく、円座村は新田を担保(たんぽ)に1000両の大きな借金をしました(1両＝現在の数万円)。借金は村全体で保証する借金でした。

この後、不運にも、天候が悪いために、農作物の生産が非常に落ちました(「天保(てんぽう)のだいききん」)。これによって米の収穫が減って、借りたお金が返せなくなりました。返せないと、担保(たんぽ)にした新田を取られてしまいます。宗持さんは借金の責任を取って、天保(てんぽう)10年1月23日(1839年)にみずから切腹(せつぷく)して命を絶(た)ちました。

円座邨(村)墾田碑(えんざむらこんでんひ)と現在

1 それから37年後、明治9年(1876年)、11代の米山宗寿(むねとし)さんの時に、村中の人々の結束と努力と貯めたお金によって、やっと1000両の借金を返すことができました。

明治18年(1885年)に、円座村をはじめ、三重県内および三重県外の有志(ゆうし)の人々は米山宗隆さん、宗持さんの立派な仕事に感謝して、米山新田の真ん中に、円座村墾田碑を建てました(写真⑩)。その功績(こうせき)を今も世の中の人々に伝えています。

沼木地区の先人(せんじん)の知恵や自己犠牲(ぎせい)をむしろ進んでする行動に、今の私たちは学ぶところが多いです！



⑩円座村墾田碑と弁天さん(弁天さんは写真の左側)



⑪米山さんの説明(米山新田の解説案内板の前)

2 昭和50年(1975年)に、サニーロード(南伊勢広域農道、みなみいせこういきのうどう)の建設工事のさいに、サニーロードの下を横切っているトンネルが埋(う)まってしまわないように、伊勢市役所がトンネルをコンクリートで修理しました。



⑫台法寺山をつらぬく約150mのトンネル(ずいどう)の入口(前方奥)



⑬約150mのトンネルの出口(いせ上野台からサニーロードぞいの反対側)



⑭トンネルを出たあと(いせ上野台付近)

3 円座町の人々は米山用水を『ゆみぞ』、「とうしゅこう」を『奥のゆ』と呼んでいます。

現在、米山用水は3面がコンクリート製の「みぞ」に直されています(昭和57年～昭和60年(1982年～1985年))。

毎年、春の田植えの前になると、円座町の人々は「出会い」(であい、地域の協働(きょうどう)作業)で、用水路のそじや、土手の草刈りをして、田に水を入れる準備をします。

田植えが始まると、順番に用水路の見まわりを行います。必要におうじて、水の流れを調節します。壊(こわ)れた所があれば、直します。6月上旬ごろにはホタルが赤井山(あかいさん)側の用水路のまわりを飛ぶのを楽しめます。



⑯円座町・米山新田の用水入口付近(2023年6月7日)



⑰円座町・米山新田(2023年6月7日)

米山用水は近年になってコンクリートなどで整備され、今日まで管理や利用がなされています。そのため、米山用水は江戸時代当時の姿(すがた)のままではありません。しかし、米山用水のルートを実際に歩いてみると、機械をまったく使わずに、山野の平らでない荒れ地に約7.6kmの水路を切りひらく当時の工事がいかに困難であったかを体感できます。



⑱米山新田(2023年8月16日)、収穫前

参考資料

- 1) 西野儀一郎 「ふるさとの人物風土記、度会の巻」、『三重交通株式会社社内報』、p. 66-71、1982年5月、211号(三重交通株式会社)。米山氏と米山新田について詳しい解説がある。
- 2) 社会科副読本資料作成研究会編 「5地域のはってんにつくした人々」、『3・4年社会科 わたしたちの伊勢市』、p.106-113、2021年版、(伊勢市教育委員会)。写真とイラストで平易な説明があり、15代の米山公美(きみよし)さんのインタビュー記事も掲載されている。
- 3) 伊勢市教育委員会 「米山新田」、『歴史教材 ふるさと伊勢』、p.12、2020年、小学6年～中学3年向け。
- 4) 浜口主一 「ふるさと再発見 米山新田の壟田碑」、2010年9月11日、(中日新聞、伊勢志摩版)。
- 5) 三重県編 「米山宗持」、『先賢遺芳(せんけんいほう)』、p.131-132、1915年、(三重県)。国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能。
- 6) 伊勢市教育委員会 解説案内板「米山新田」、2012年設置。円座村壟田碑の前にある。
- 7) 伊勢市編 「6米山新田」、『伊勢市史』、第7巻 文化財編、第10章 史跡・名勝・天然記念物、第1節 史跡・名勝、p.578-579、平成19年(2007年)、(伊勢市)。

謝辞

この解説は主に西野儀一郎著の資料1をもとに作成しました。西野儀一郎著の資料がなければ、この解説を書くことができませんでした。(故)西野儀一郎さんに深く感謝いたします。

西野儀一郎著の資料1の出典については不明でしたが、三重県立図書館に調査相談を行った結果、三重交通(株)の社内報の可能性があると指摘を受けました。三重交通(株)に尋ねた所、出典の確認が取れました。三重県立図書館の職員の方々および三重交通(株)の職員の方、ありがとうございました。

また、資料の提供、原稿の校正などをしていただいた円座町の方々および沼木まちづくり協議会のスタッフの皆さん、ありがとうございました。



作成責任者:沼木まちづくり協議会 立花和也

初版 2023年2月25日

第4版(レイアウト変更および増補) 2024年1月23日

小中学生版(簡略版) 2025年3月3日

(より詳しい解説の第5版もあります)

沼木まちづくり協議会

〒516-1104 三重県伊勢市上野町823

(旧沼木中学校)

TEL: 0596-39-7240 FAX: 0596-39-7241

メールアドレス: info@numakijin.com

ホームページ: <https://numakijin.com>